

大東市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

【小・中学校】

- ・令和4年度より学校司書を全校配置している。
- ・小学校へは月2回、中学校へは月1回、市立図書館より司書を派遣し、授業や蔵書整理などをサポートしている。
- ・学校司書等連絡会を開催。令和5年度は、小中学校5校を会場として実施し、学校図書館の環境整備や読書推進の取組みについても交流した。また、市立図書館司書も参加していただき、助言や意見交流をさせていただくことで市立図書館と学校図書館との連携にもつながっている。
- ・学校図書館教育研修として、GTM校における学校図書館を活用した授業を参観し、その後の全体交流で学校図書館活用について情報共有している。
- ・学校ごとに市より図書購入費を配当している。
- ・令和5年度より小学校へは小学生新聞（日刊）、中学校へは中高生新聞（週間）を全校配備している。
- ・学校図書館のより一層の充実と活用が図られるよう、「大東市学校図書館利活用ガイドライン」を策定し、各校へ周知している。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

【小・中学校】

- ・全校に学校司書を配置し、貸出や授業補助などを行っている。
- ・小学校においては、学校司書が読み聞かせやブックトーク等を行っている。
- ・中学校においては、委員会活動とも連携し、生徒の読書意欲の推進を図るための取組みを行っている。

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

【小学校】

- ・学校司書または地域ボランティアによる読み聞かせを行っている。
- ・「としょだより」で新刊図書や学年に応じた推薦図書を明記し、児童への読書推進と「家読（うちどく）」（親子読書の取組み）につなげている。
- ・「先生のおすすめの本」のコーナーを設け、紹介文とともに展示することで、児童の読書意欲の向上につながっている。
- ・リクエストカード（児童用と教員用）作成により図書への興味関心につなげている。
- ・国語科の物語教材で、同じ作者の作品を集め、並行読書を実施している。
- ・「読書通帳」を作成し、児童に配付している。

- ・市立図書館と連携し「図書館を使った調べるコンクール」にむけて、図書館司書による調べ学習についての出前授業を学校で実施している。

【中学校】

- ・学年ごとに必読図書をあげ読書を勧めている。
- ・毎朝15分間の「朝の読書」の時間を設定し、落ち着いた1日のスタートにつなげている。
- ・生徒おすすめの本のコーナーを設置し、生徒の図書への興味を促している。
- ・学年、または図書委員会を中心としてビブリオバトルを開催している。
- ・「図書館通信」で新着本やおすすめの本を紹介している。
- ・定期的に新着本の展示会を行っている。
- ・「先生のおすすめの本」のコーナーを設け、紹介文とともに展示することで、生徒の読書意欲の向上につながっている。
- ・リクエストカード（生徒用と教員用）作成により図書への興味関心につなげている。
- ・読書通帳を作成し、生徒に配付している。
- ・安心して過ごせる居場所としての役割の充実を図っている。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

【小・中学校】

- ・学校図書館システム「探調DX2」

5. 各市町村の学校図書館に関して特徴的なこと

【小・中学校】

- ・平成28年度より、市教委と市立図書館が連携をして「図書館を使った調べるコンクール」を実施している。令和5年度は小・中学校あわせて1139作品の応募があった。

6. タブレット導入について

【小・中学校】

- ・学校図書館の活用とICT活用をバランスよく進めていくことが今後の課題と考えており、担当教員の連携の促進や学校司書への情報提供について進めていく。
- ・令和5年度より、市立図書館と連携し1人1台端末から閲覧可能である「だいとう電子図書館」の活用を開始している。

交野市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

交野市小中一貫学園構想事業及び子ども未来サポート事業として、学校図書館の活用支援のための学びあいサポーターが各校に派遣されている。

2. 各市町村の学校図書館関係の組織の形態と活動について

交野市学校図書館協議会（役員会・運営委員会）
役員選出・活動計画等
学校図書館実態調査
大阪府青少年読書感想文コンクール交野地区審査情報交換
本年度のまとめ

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例について

図書ボランティア（保護者・地域等）を組織し、学校図書館の環境整備、図書の貸出・返却、読み聞かせなどを行っている。

学びあいサポーターをコーディネーターとして、市図書館との連携が進み、調べ学習では教員のオーダーを受け、市図書館の蔵書を活用している。

「子どもに読ませたい100冊の取組（読書マラソン）」、「ミニビブリオバトル」を行うなど、読書活動の充実を図っている。

各小学校では、読み聞かせの活動として、「お話し会（地域ボランティア）」、「読書会（市図書館司書）」などを行っている。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

平成25年度よりコンピュータ化がスタートし、市内小・中学校全13校がコンピュータによる蔵書管理をしている。

5. 各市町村の学校図書館に関して、特徴的なことがあれば

言語活用能力向上のために、各教科、領域の特性に応じて学校図書館を活用し、①情報を収集したり取り出したりする力、②目的に応じて必要な情報を見つけ出したり比較したり、関連づけたりする力、③得た情報を基に、物事を推し量ったり予想したりする力、④根拠を明確にしながら論理的に思考する力など4つの力を中心に育成することをめざして、市より「学びあいサポーター」が派遣されている。

放課後に学校図書館を開館し、学校図書館を子どもたちの「こころ」と「からだ」の居場所とな

ること、また、家庭学習が困難な子どもたちの学習をする場として学校図書館を活用し、家庭学習の習慣づくり支援を行うとともに、学力保障の一助となることをめざして、市より「学びあいサポーター」が派遣されている。

市が「本の森プロジェクト」として、幼児期の読書習慣、学校図書館の活用、子どもたちの成長に応じた読書指導のほか、地域の図書ボランティア・各種団体による絵本を通じての読書活動の活性化など、市民参加型事業を行う。

6. タブレット導入について

本市では、小学校1年生から中学校3年生までの全児童生徒及び教職員対象に一人一台のタブレット端末が配布されている。図書委員が読み聞かせをしたり、読書紹介をしたりと活用が進んでいる。

門真市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- ・学校図書館司書については、市内小・中学校全校（20校）へ配置しています。
- ・学校図書館司書については、市教育委員会が2か月に1回連絡会を開催し、研修や情報交換等を行っています。また、市立図書館との連携も進めています。

2. 各市町村の学校図書館関係の組織の形態と活動について

市として学校図書館関係の組織は現在のところありません。

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・学校司書が市内の各小中学校に向けて、学校図書館司書だよりを年4回発行
- ・本のPOPづくり（市立図書館と連携して）
- ・読書週間（学校司書による読み聞かせ・ブックトーク等）
- ・おすすめの本コーナーの設置（国語の単元と関連させて・平和学習・調べ学習等）
- ・学校司書が中心となり、夏期休業中に市立図書館において、イベントの開催
- ・各校の司書が「図書だより」を発刊している。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

速見小学校と門真はすはな中学校の2校のみ、データ管理されています。使用しているソフトは、「探調ツール」です。MARCについては、市立図書館と合わせた形で「日版マーク」を使用しています。

5. 各市町村の学校図書館に関して特徴的なこと

- ・全校へ学校図書館司書を配置したことにより、子どもたちの本に対する興味関心が高まるような書架の配置や室内装飾、選書、読み聞かせ等の工夫がされています。
- ・学校と市立図書館が連携し、市内の小学校にて『えほんのひろば』を開催し、子どもたちの読書へのきっかけづくりをしています。

6. タブレット導入について

国のGIGAスクール構想により、市内各校にタブレット端末が配置されています。まだ、学校図書館での活用までは至っていません。

活用についての課題は、その都度充電保管庫から出し入れをしないといけない点であり、小学校の低学年など大変時間がかかってしまうところです。

枚方市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

【小学校】

- ・市内全中学校区に学校司書が配置され、小学校の学校図書館の充実のためサポートを受けている。更に今年度も、一昨年度に引き続き45校中の10校に、5名の学校司書がモデル的に配置され図書環境改善に取り組んだ。）
- ・枚方市中央図書館の学校図書館支援グループにより、学校司書の育成サポートや学校図書館の整備・活用等のサポートを受けている。
- ・公共図書館から図書の定期的な団体貸し出しを行っている。

【中学校】

- ・市内全中学校区（19中学校区）に学校司書を配置している。中学校での勤務を基本とし、小学校での勤務は校区ごとに決定している。
- ・公共図書館から図書の団体貸し出しを行っている。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

枚方市小学校図書館協議会

- ・年間1回、独自の研修会を実施。
今年度は、さだ東小学校司書の絵の本広場の取組を講師を招いて講演会方式で紹介し、アンケートを実施。
- ・大阪府青少年読書感想文コンクール、大阪府青少年読書感想画コンクール、地区審査等の実施。

枚方市中学校図書部会

- ・活動 年間2回
廃棄図書の選定
中学校の図書室の見学
各中学校の図書館業務に関する情報交換
公共図書館との連携事業
- ・大阪府青少年読書感想文コンクール、大阪府青少年読書感想画コンクール、地区審査等の実施。

3. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・小中学校がバーコードでの貸し出し管理を行っている。

4. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・小中学校全校において、全小中学校と公共図書館とでオンラインで蔵書閲覧が可能。

5. タブレット導入について

- ・タブレットが導入されたことによって、インターネットによる検索等の活用により、一時は読書利用数が減少気味であったが、読書活動推進校においては、図書室の多様な活用により、読書量を維持している。
今後も、図書室や市の図書館との連携により、図書による並行読書や、調べ学習における図書の活用を進めていく方向である。
- ・一昨年よりおすすめ本の投票をオンラインで応募し、実施している。

寝屋川市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・「第3次寝屋川市子ども読書推進計画」を策定している
- ・学校司書配置（9人）
- ・学校図書館への新聞配備（2紙配備）
- ・図書購入費支給
- ・e-Books 事業 下記参照

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・学校図書館連絡会実施（年3回）
対象：学校司書
司書教諭（図書担当各校1名）
内容：情報交換、図書便りの共有

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

<小学校>

- ・ボランティアによる読み聞かせ
- ・「読書ノート」の取り組み
- ・読書習慣、朝の読書、おすすめ本
- ・教員のビブリオバトル
児童のビブリオバトル

<中学校>

- ・朝の読書活動（全中学校で実施）
- ・文化委員会でビブリオバトルを行う

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

<小学校>

図書カードが5割、バーコードでの管理が5割。

<中学校>

図書カードが1割、バーコードでの管理が9割。

5. 各市町村の学校図書館に関して特徴的なこと

- ・中央図書館から全市立小中学校に、月に1回、約100～200冊の図書を配送する。また、テーマに沿った図書を配送し、その図書を活用した「企画展」を開催する。
- ・市の図書館が小中学生に読書通帳（5000部）の配布を行っている。

※読書通帳は、読書の記録帳で、読書した本の書名、感想を自分で記入する。「満期」になったら賞品が提供される。

- ・児童生徒がタブレットを活用し中央図書館の本を予約し、学校で本の受け取りと返却をすることができる。e-Books

6. タブレット導入について

GIGA スクール構想により全校で全生徒に一人一台のタブレットが配付され、授業をはじめとする様々な教育活動での活用が進んでいる。特に寝屋川市ではディベート教育に力を入れており、タブレットを利用した調べ学習や、参考資料を市図書館より取り寄せての学びに活用している。また、上記5のような図書の貸し出しが可能となり、利用する児童生徒が増えている。e-Books 事業は児童や保護者に好評で、常に自分の好きなタイミングで新刊等を選び、借りることができる。加えて、校区外の図書館へ出かけていなくてもよいという利便性や安全性も向上している。

四條畷市

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

現在、市内小・中学校の学校図書館には、行政から学校図書館支援員が小・中学校全校に配置されている。

学校図書館支援員は、学校図書館の運営に積極的に関わっており、教員が担っていた貸し出し業務や読書指導なども行っており、特に教員が日常的になかなかできない本の整理や古い図書の廃棄、分野ごとの書架の配置など、教員は、大変助かっている。

また、子どもが興味を持って本を選択できるように本の置き方を工夫するなど、学校図書館支援員が配置されたことにより学校図書館が見違えるようになり、大変使いやすくなっている。

さらに、学校図書館にない本や、児童・生徒が読みたいと思う本のリクエストがあるときには、学校図書館支援員が仲立ちとなって、市立図書館から貸し出しができるようにするなど、市立図書館との連携がより進んでいる。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

学校図書館と市立図書館は、学校図書館に設置されているパソコンとインターネットにより繋がっており、市立図書館と離れた位置にある学校も図書館との連携がとてもスムーズになっている。

3. 四條畷市の学校図書館の具体的な活動例

小学校では、学校図書館支援員が、各クラスの図書の時間に読み聞かせを行い、また図書の話を見聞に提供するなど、児童が読んでみたいと思う気持ちにさせるような工夫を行っている。

あわせて、小中学校とも学校図書館支援員による通信や掲示により子どもたちの学校図書館の利用者が増加し、より学校図書館の活性化が進んでいる。

4. 学校図書館の蔵書管理方法について

学校図書館に設置したパソコンで各蔵書に添付されたシールの内容（書名・作者など）を読み取り、管理できるようになっており、貸し出し状況、返却状況も瞬時に分かるようになっている。

5. 四條畷市の学校図書館に関して、特徴的なこと

上記の学校図書館支援員には、市立図書館の職員や、元教員、学校によっては、元保護者で司書の資格はないもののこの業務に興味・関心があつて仕事を担っておられるところもある。元市立図書館の職員は、図書館業務や運営の専門家であり、元教員は、小学校教員の指導力を活かして、この二人の職員が互いの専門的領域を分担し、連携しながら業務を行っている。

6. タブレット導入について

国のGIGAスクール構想により、市内各校に児童・生徒一人一台のタブレット端末が配置された。適時授業で活用しつつその使用頻度は多くなっている。今後は単なる調べ学習に止まらずその活用は拡充されていくものと考えられる。また、学校図書館での活用までは至っていないが、必要に応じてそのような機会も出てくるだろうと予想される。

守口市

1、各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

学校図書館環境のさらなる充実に向け策定した「守口市学校図書館の基本計画」に基づき、学校図書館支援事業として学校司書1名を各中学校区に配置している。今年度は全小中学校、義務教育学校の図書館に蔵書のデジタル管理システムを導入し、図書館教育のさらなる活性化に努めている。今後も各校における学校図書館の毎日開放や児童生徒のニーズに応じたさらなる蔵書冊数の充実、ネットワーク化等に取り組んでいく予定である。

2、学校図書館関係の組織の形態と活動について

各校に司書教諭免許を有した教員を配置するとともに、各校においては、学校長の学校運営の下、司書教諭等を中心とした分掌の中で体制を整備しているところである。

また、学校図書館担当教員や図書館司書の交流会をもち、各校での取組みの交流を数回行った。

3、各市町村の学校図書館の具体的な活動例

授業において、調べ学習や読書活動等で活用し、学校司書、図書ボランティア等を活用しながら、学校図書館の環境整備、図書の貸し出しや読み聞かせ等を行っている。加えて、図書委員会の児童生徒が学校図書館の充実した運営に関わっていることも多く、ビブリオバトルなどの取組みを行っている学校もある。

4、各学校図書館の蔵書管理方法について

今年度、全小中学校、義務養育学校の図書館にデジタル管理システムを導入し、デジタル管理に統一した。

5、守口市の学校図書館に関して、特徴的なこと

図書館司書（有償ボランティア）を各中学校区に1名配置している。（8中学校区）

守口市立図書館の読書通帳を小学1年生に全

員配布しており、今後も読書活動をさらに推進し、各小中学校の図書館と市立図書館との連携や学校間の連携を図っていきたい。

6、タブレット導入について

小中学校、義務教育学校への設置は完了済みであり、タブレットを使った学習指導、家庭学習の指導について市教育委員会の支援を受けながら、各校で取り組んでいる。その中で学校図書館におけるタブレットの活用方法についても研究を行っている。

また、市立図書館において、電子図書の貸し出しも行われているので、タブレットを使った読書活動についても研究していく。